

ドイツにおける CEFR 導入の現状とその改善への基礎研究 ードイツでの現地調査およびドイツ語教材語彙調査に関する報告ー

在間 進

1. はじめに
2. ドイツでの現地調査
 - 2.1. 質問事項
 - 2.2. 回答結果
 - 2.3. 総括
3. BERLINER PLATZ 3 (B1) の使用語彙調査
 - 3.1. 調査の意図
 - 3.2. 調査結果
 - 3.3. まとめ

1. はじめに

CEFR（正式名 Common European Framework of Reference for Languages「共通ヨーロッパ参照枠」）は、欧州の言語教育のシラバス、カリキュラムのガイドライン、試験、教科書などの向上のための包括で明確かつ一貫した共通基盤を与えるものとして構想されたものである（吉島茂他編・訳『外国語教育Ⅱ－外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠－』（2004 年、朝日出版社）などを参照）。EU 諸国における外国語教育政策の中核を占めるものである。

しかし、CEFR 構想の理念については、様々な形で様々な情報を得ることができるが、CEFR 構想が実際にヨーロッパ（たとえばドイツ）の外国語教育現場でどのように受け入れられ、どのように実践されているかなどに関する教育現場での情報はほとんど得ることができない。また、その構想実現のために不可欠な教材開発の情報については、少なくともドイツ語に関して皆無である。

本報告の前半では、以上のような状況を鑑み、2006 年 9 月にドイツのマンハイムにある Volkshochschule Mannheim（「市民大学マンハイム」；略称 VHS Mannheim）の言語センターを訪問し、ドイツにおける外国人向けドイツ語教育の実態を、特に CEFR 構想の実現という観点から調査した結果について述べる。VHS Mannheim の言語センターは、一般の人を対象とし、約 40 の外国語のコースを開設しているが、年間の受講者は約 1000 名である。2006 年 9

月開始の学期より、CEFR 導入を実施している。

そして、後半では、上述の、VHS Mannheim での情報収集に基づき、私たちが現在実施しているドイツ語教材開発の基礎研究の成果の一部、具体的には、ドイツで最も定評のあるドイツ語教材『Berliner Platz 3』（Langenscheidt）（CEFR の B1 ランク対応）における使用語彙を、各種の基礎語彙リストや頻度調査リストと比較・調査した結果を示すことにする。

2. ドイツでの現地調査

2.1. 質問事項

ドイツにおける外国人向けのドイツ語教育の実態を、特に CEFR 構想の実現という観点から調査するため、訪問先の VHS Mannheim では、以下の質問事項を軸に、情報収集を行った。

- (1) CEFR（ドイツ語の正式名称は Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen；略称 GERR）をどう評価しているのか？
より具体的に言えば、
 - a. CEFR 導入により、ドイツにおける外国人向けドイツ語教育にどのような改善がなされたか？
 - b. CEFR に基づき、ドイツにおける外国人向けドイツ語教育を行う上で問題点はないのか？あるとすれば、それは何か？特に、CEFR の A1 から C2 までの 6 段階の能力評価基準は、現場で、クラス分けを行う際に十分役立つもの（すなわち改善されたもの）になっているか？
- (2) ドイツでは、従来から多くのドイツ語教材が作成されてきたが、CEFR 導入によってドイツ語教材作成はどのようなになったのか？
ドイツ語教材はすべて CEFR に準拠するようになっているか？
- (3) 当市民大学での教育成果が、CEFR の観点から、上部機関（たとえば国、州、公共団体など）から評価されることがあるのか？
また、CEFR の実現のための、現場教師の研修などが行われているのか？
- (4) ドイツにおける外国人向けドイツ語教育の問題点として、どのようなことがあるか？
特に、非ヨーロッパ系の学習者対象に CEFR に準拠するドイツ語教育は、十分に効果を発揮するものと思うか？
- (5) ドイツにおけるドイツ語以外の外国語教育における CEFR の導入はどのような状況になっているのか？
- (6) CEFR は今後どのような形で発展していくと思うか？

2.2. 回答結果

VHS Mannheim では、CEFR に関する一般的なテーマについては、所長、事務局などの管理部門の人と意見交換を行うとともに、具体的な教育上の問題などについては、ドイツ語の実際の授業にも参加し、授業を担当している教員から情報を収集した。上掲の質問に対して得た回答は、以下のようなものであった。

(1)の「CEFR の評価」に関して

導入間もないということもあり、CEFR の実践に伴う効果、問題などについては、具体的な評価を行っていない。

CEFR 導入のメリットは、外国語教育改革の目標が明確になり、組織的かつ体系的改革の前提ができたことであり、そのこと自体は高く評価するが、その目標が教育現場で実際に実現されるまでにはかなりの時間がかかると推測される。

CEFR の最大の問題点は、CEFR 理念と教育現場の乖離である。

特に、6 段階の能力評価基準（A1 から C2）は、区分が大まか過ぎて、教育現場の実情と合わない。

(2)の CEFR 準拠の教材に関して

CEFR のレベル別に基づいたドイツ語教材を使用しているが、すべて市販のものである。

CEFR 準拠の教材が独自に開発されているわけではない。

(3)の「上部機関からの評価」に関して

教育成果に関する直接的な評価制度はないが、他方、教員の研修制度もない。

(4)の「外国人向けドイツ語教育の問題点」に関して

非ヨーロッパ系の学習者に対して CEFR 対応の教育を行うことに関して、特に問題があるとは思えないが、市民大学の受講者は、学習モチベーション、国籍などが多様で、学習者の諸条件を考慮したきめ細かなドイツ語教育は不可能に近い。

(5)の「他の外国語教育と CEFR の関係」に関して

ドイツにおける、ドイツ語以外の外国語教育と CEFR の関係は、ドイツ語教育と似た状況である。

(6)の「CEFR の今後」に関して

CEFR 構想は、歴史的な必然であり、時間がかかるであろうが、実現に向かって、確実に様々な試みがなされていくと考えられる。

2.3. 総括

今回の調査に基づく限り、ドイツにおけるドイツ語教育現場への CEFR 導入は、未だ本格的なものになっているとは言えないものであった。そもそも CEFR 構想は「指針」のみを示すもので、その実現の具体策は、各国の教育実施母体が作成するという事になっている。したがって、各国の教育現場で、CEFR 構想実現までにある程度の時間がかかるとしても、それは当然のことであるとも言えよう。

CEFR 理念そのものは、評価されるべきもので、今後、様々な形で、その実現への取り組みが本格化していくであろうと思う一方（一部、このような取り組みがすでに始まっていると言われる）、VHS Mannheim の実情を見た印象ではあるが、ドイツにおける CEFR 構想が順調に実現していくかについて、問題がないわけではない。ここでは、主な 2 点を挙げることにする。

<過去の実績>

その一つは、ドイツにおけるドイツ語教育のこれまでの具体的な実績である。ドイツでのドイツ語教育は、従来「大学入学資格試験」などの実用的目標のもとで行われ、一定の成果を挙げて来た。この過去の実績が CEFR 導入の確固たる基盤になる一方、マイナスにもなると考えられるのである。すなわち、過去の実績が、CEFR 理念の実現への意欲を失わせるという危険性である。

実際、VHS Mannheim を訪れたのは 2006 年 9 月であるが、それから 2 年半ほど経った 2009 年 1 月段階での、VHS Mannheim のホームページは、当時と大きく様変わりをし、GERR という検索ページが独自に設けられ、「本 VHS は GERR に基づく語学教育を実施する」とはっきり書かれているにもかかわらず、そこには、GERR の理念的な図式が載せられているのみであり、CEFR 構想に関する具体的な、熱意の感じられるような取り組みなどが報告されているわけでもない。

それに対して、従来の、Deutsch als Fremdsprache（外国語としてのドイツ語）の検索ページには、以下の 5 つの部門それぞれについて詳細な説明がなされている。ちなみに、CEFR は、以下の 2 の「ドイツ語集中コース」における各コースのランク名として A1、A2、B1、B2、C1 の名称が付記されているのみである。なお、3 の、従来の「各種検定試験受験コース」に関しては、資料 1 を参照されたい。

1. Deutsch Intensivkurse für Studienbewerber und Schnelllerner

（大学入学を志願する人へのドイツ語コース）

2. Deutsch Intensivkurse

(ドイツ語集中コース)

3. Prüfungen und Prüfungsvorbereitungskurse

(各種検定試験受験コース)

4. Integrationskurse mit Förderung des Bundesamtes

(外国人統合政策のためのコース)

5. Spezialkurse zum Einüben sprachlicher Grundfertigkeiten

(基本語学力特別コース)

上述のような状況、すなわち「過去の実績への依存」は、CEFR 準拠の教材作成の現場にも見ることができる。すなわち、ドイツで市販されているドイツ語教材は、すべて CEFR 準拠を謳っているが、実際は、過去のものを（一部手直しした形で）CEFR 準拠として市販している。過去の実績が、CEFR 準拠のドイツ語教材の作成への、「新たな」本格的な取り組みを妨げていると言えよう。

<現地教育の甘え>

もう一つは、ドイツにおけるドイツ語教育が、学習者のドイツ滞在という、ドイツ語習得にとってきわめて恵まれた環境に依存しているということである。VHS Mannheim の言語センターの訪問の際にいくつかの授業を参観したが、その際の印象では、ドイツ語教育のコースの運営、実施方法、教授法、教材の使用法など、決して質の高いものではなかった。それでも、これらのコースが一定の効果を挙げ、評価を受けているとするならば、それは、学習者がドイツで暮らすことによって得られる日常生活の「語学学習」が言語センターでの教育を「補完」しているためであると考えられる。ドイツでのドイツ語教育が、このような現実に甘える限り、教授法、教材などの改革への意欲が決して高まることはないであろう。

日本でドイツ語教育に長らくかかわっている私たちの今回の VHS Mannheim の訪問の最大の関心事は、ドイツで CEFR 構想に基づきドイツ語教育（ドイツ語教授法、ドイツ語教材など）がどのように改革されているかということであったが、現状は、残念ながら、私たちの期待からはるかに遠いものであった。

3. Berliner Platz 3 (B1) の使用語彙調査

3.1. 調査の意図

前節では、「拡大 EU 諸国における外国語教育政策」の中核とも言える CEFR 構想実現の動

きが、ドイツにおけるドイツ語の教育現場で決して満足のいくものになっていないことを述べた。

EU 諸国における CEFR 構想の実現自体に、日本でドイツ語を教える私たちが直接関与するものではないが、それが外国語教育の一つの理念として実現されるか否かは、私たちにとっても、極めて重要な意味を持つ。このような観点から、私たちは、CEFR 構想の実現にも貢献し、かつ日本におけるドイツ語教育の改革にも寄与する研究を行う企画を立て、この間、いくつかの基礎的調査・分析を行ってきたが、本節では、その一部を示すことにする。

具体的には、ドイツで最も定評のあるとされるドイツ語教材『Berliner Platz 3』(Langenscheidt ; CEFR の B1 ランクに相当 ; 以降、BP3 と略記) の使用語彙の調査・分析である。分析対象のレベルとして B1¹を取り上げたのは、ドイツでは、このレベルがドイツ語の一般的語学力とされ、ドイツ国籍を取得したり、職業訓練を受けたりするための前提になるとされるためである。

第一の実際の作業として、山田善久氏(岐阜経済大学)の協力を得て、教材 BP3 を電子化し、使用語彙のリストアップを行った。どの語形を同一語彙とするかなどの基本的な問題はあるが、本教材での使用語彙数を約 4200 語と算定した。一般的に、基礎語 2000 語を習得すれば、文章の約 90%が、4000 語を習得すれば、文章の約 95%が理解できるようになる、また、未知の単語に出会っても、文中の 97%の単語を知っていれば、文脈からその意味を推測できるようになると言われる。この観点から言えば、BP3 における使用語彙約 4200 語という数は、極めて妥当なものと言えよう。

しかし、問題は、これらの、約 4200 の語彙が学習する上で妥当なものであるかどうかという語彙の「質」の面である。すなわち、これらの語彙が具体的にどのような語彙から成り立っているかである。この点を調査するため、BP3 の使用語彙をドイツ語教育分野で一つの基準となっている Zertifikat Deutsch 基礎語彙約 2300 語 (Goethe-Institut 作成 (1999) ; 以降、ZD と略記) とライプツィヒ大学 Herder-Institut とアメリカのブリガムヤング大学 (BYU) の共同プロジェクトによる 4034 語頻度リスト (以降、H/BYU と略記) との対照を行った。なお、ここに示す調査結果は、語頭が A(a)の語彙に限定したものである。

3.2. 調査結果

<BP3 と ZD の対照>

¹ CEFR では、B1 を「自立した言語使用者」の第一ランクと位置付け、以下のように、定義づけている：「会話を維持し、自分の主張をわかってもらう能力。無準備で会話に入る事ができる。単純な方法で結び付けられた脈略のあるテキストを作る事ができる。意見や計画の理由、説明を短く述べる事ができる。」

まず、BP と ZD の対象であるが、BP3 全体における使用語彙数を約 4200 語と算定したが、その内、語頭が A (a) の語彙 346 語に関して、まず、ZD2294 語の内、語頭が A (a) の語彙数 185 語と対照した。

その結果、— 語頭が A(a)で始まる語彙に限定したものではあるが —、ZD の、資料 2 に示した 63 語（約 34%）が BP で使用されていない。すなわち、BP3 自体が ZD の 2 倍近い語彙（約 4200 語）を使用しながら、ドイツ語教育分野で長らく基礎語彙として認められてきた ZD の語彙を 34%近くも取り入れていない、すなわち学習対象としていないことになる。これは、BP3 の、語彙学習的側面における一つの問題であると言えよう。

使用されていないいくつかの語彙を以下に挙げてみる：

Absender	差出人	angenehm	心地よい	Ankunft	到着
Anwalt	弁護士	Ausgang	出口	Automat	自動販売機

<BP3 と H/BYU の対照>

次に、BP3 と H/BYU の対象であるが、BP の使用語彙は約 4200 語、H/BYU の使用語彙は 4034 語で、ほぼ同数である。なお、H/BYU の内、語頭が A(a)の語彙は 418 語である。

対照した結果、— 語頭が A(a)で始まる語彙に限定したものではあるが —、H/BYU の、資料 3 に示した 239 語（約 57%）が BP3 で使用されていない。すなわち、BP3 は、使用頻度的に重要な語彙の半数以上を使用しない教材になっているということである。これも、BP3 の、語彙学習的側面における一つの問題であると言えよう。

使用されていないいくつかの語彙を以下に挙げてみる：

abhängen	依存する	Abschied	別れ	Absicht	意図
abstrakt	抽象的な	anerkennen	認める	Änderung	変化

<ZD と H/BYU の対照>

最後に、ドイツ語教育分野で一つの基準となっている ZD の基礎語彙と大規模コーパスの使用頻度調査に基づく H/BYU を対照した調査結果を示す。これは、主にドイツ語教育に長く携わってきたドイツ語教師の経験に基づくものと、実際の言語使用上のデータに基づくものとの対比という意味合いを持つ。

具体的には、ZD の語頭が A(a)の語彙 188 語が H/BYU の順位 2294 以内に入るか否かを調査した。すなわち、ZD の総語数が 2294 語であるため、ZD の語彙を H/BYU の上位 2294 語

と対照することによって、教育的観点からの語彙選定と使用頻度に基づく語彙選定の相違（あるいは同一性）をより妥当性を持って知ることができると考えたからである。

対照した結果、一語頭が A(a)で始まる語彙に限定したものではあるが一、ZD の 185 語のうち、資料 4 に示した 86 語（約 46%）が H/BYU の 2294 位に入っていない。すなわち、ドイツ語教師の経験に基づく基礎語彙と実際の言語使用上のデータに基づく高頻度語彙とがほぼ半数異なっているのである。

ZD の基礎語彙で、頻度 2294 位以下の語彙を以下に挙げてみる：

Alkohol	アルコール	Ausflug	遠足	Ausgang	出口
Autobahn	アウトバーン	Apfel	リンゴ	Abfall	ゴミ
analysieren	分析する	ärgern	怒らす	aussteigen	降りる

3.3. まとめ

まず、BP3 が（教育的に基礎語とされる）ZD の語彙を 34% 近くも取り入れていないこと、次に、BP3 は、（使用頻度上、重要語とされる）H/BYU の約 57% を使用していないこと、そして最後に、ZD の約 46% が H/BYU の 2294 位に入っていないことを述べた。これらの結果は、教育上必要とされる語彙、実際に日常で頻繁に使用される語彙、実際の教材作成で使用される語彙の間に大きなギャップがあることを示していると言えよう。

大規模コーパス dewac²の 55000 語リストと日本で作成された独和辞典（見出し語数 5 万から 6 万程度）の見出し語を比較した山田善久（2009）では、両者の間に平均 27% 程度の差異が認められたとのことである。独和辞典の場合、動詞および名詞の変化形も、見出し語数に数え入れるため、実際的な差異は、さらに大きいと言えよう。

今後の外国語教育は、語学教師の経験によるだけではなく、言語研究の成果も取り入れた形でなされていかねばならない。そして、教材作成も、単に文法事項の説明から、そのために使用される語彙にまで細かな注意を払って行われねばならないであろう。私たちは私たちが、上記のような使用語彙の基礎研究などを続け、日本におけるドイツ語教育の改善の努力を続けるが、欧州においても、CEFR 構想が実りある実現に向かって大きく展開されていくことを願うものである。

² dewac は、イタリアの Trento 大学作成の Web コーパスに基づく頻度リストで、全体の分量は 1419 万語を超える。

参考文献

Goethe-Institut (1999): *Zertifikat Deutsch. Lernziele und Testformat*.

IDS (2007): *Korpusbasierte Wortgrundformenliste DeReWo. Benutzerdokumentation*. Technical Report IDS-KL-2007-02.

Jones, Randall/Tschirner, Erwin (2006): *Frequency dictionary of German*. London: Routledge.

山田善久(2009)：「語彙使用頻度調査は今どこまで可能になっているか」、在間・時田編『大規模コーパスを用いたドイツ語研究—ドイツ語教育への応用を目指して—』（日本独文学会研究叢書055）

資料 1

ドイツ語資格試験

1. Zertifikat Deutsch als Fremdsprache (ZD)

ドイツ語の「一般的語学力」と認定されるもので、ドイツ国籍の取得、職業教育、大学入学への準備コースの前提になるものである。

CEFR のランク B1 の修了に相当すると位置付けられている。

VHS Mannheim では、400 時間（45 分単位）のコースが用意されている。

2. Zertifikat Deutsch für den Beruf (ZDfB)

特に、職業に就くことを想定したものである。

CEFR のランク B2 の修了に相当すると位置付けられている。

ZD 用授業プラス 100 時間（45 分単位）のコースが用意されている。

3. Zentrale Mittelstufenprüfung (ZMP)

大学入学の DSH-Prüfung (Deutsche Sprachprüfung für den Hochschulzugang ausländischer Studienbewerber) を受験できるようになる。

CEFR のランク C1 の修了に相当すると位置付けられている。

800~1000 時間（45 分単位）のコースが用意されている。

4. Prüfung Wirtschaftsdeutsch International (PWD)

ZMP に経済的専門知識を加えたものである。

CEFR のランク C1+ と位置付けられている。

5. Kleines Deutsches Sprachdiplom (KDS)

文化などの知識を加えてものである。

DSH を受験することなく、大学に入学することができる。

CEFR のランク C2 に相当すると位置付けられている。

6. Großes Deutsches Sprachdiplom (GDS)

大学でのゲルマニスティック 4 セミスター修了に相当すると認められる。

最上級の語学証書であり、海外でドイツ語教育に従事できることを認定するものである。

CEFR のランク C2+ に相当すると位置付けられている。

資料2

Berliner Platz 3 (B1) で使用されていないZertifikat Deutschの語彙

abbiegen	Amt	aufheben
Abfahrt	angeblich	aufklären
abfliegen	angehen	aufmachen
abhängen	Angehörige	aufwachen
abhängig	angenehm	Ausfahrt
abheben	anhaben	ausfüllen
abmachen	Ankunft	Ausgang
abmelden	annehmen	ausgehen
abnehmen	Anrufbeantworter	ausgezeichnet
abrechnen	anschnallen	ausmachen
Absender	Anwalt	auspacken
Absicht	anwesend	ausschließlich
abstimmen	anzünden	außen
abtrocknen	Anzug	ausstellen
abwärts	Apfelsine	Ausstellung
Aids	Apparat	Ausweis
Alarm	Aprikose	ausziehen
allmählich	Arztpraxis	Automat
Alphabet	Asyl	Axel
Altenheim	atmen	Azubi
Alter	Atmosphäre	
alternativ	auffordern	

資料3

Berliner Platz 3 (B1) で使用されていない Herder/BYU の語彙

Abbau	Absicht	akut
abbilden	Absolvent	allenfalls
abdecken	absolvieren	Allianz
Abenteuer	abspielen	allmählich
abgrenzen	Abstand	allzu
Abgrenzung	abstellen	Alter
abhalten	abstimmen	alternativ
abhängen	Abstimmung	Alternative
abhängig	abstrakt	amerikanisch
Abhängigkeit	absurd	Amt
abheben	abwarten	amtlich
Abkommen	Abwehr	analog
ablaufen	abweichen	Analyse
ablegen	abwenden	Anbieter
ableiten	abzeichnen	Anblick
ablenken	Achse	anbringen
ablösen	Agentur	andererseits
abmelden	agieren	anderthalb
abnehmen	ahnen	Änderung
abreißen	Ahnung	andeuten
Absatz	Aids	aneinander
abschalten	Akademie	anerkennen
Abschied	akademisch	Anerkennung
abschließend	Akt	anfallen
Abschluss	Akte	Anforderung
abschneiden	Akteur	Anfrage
Abschreibung	Aktionär	anführen
absehen	aktivieren	angeblich
absetzen	Aktivität	angehen

angehören	ansteigen	auffallen
Angehörige	anstelle	Auffassung
angemessen	Anstieg	auffordern
angenehm	anstreben	aufführen
angesichts	Antrag	Aufführung
angucken	antreten	aufgehen
anhaben	antun	aufheben
anhand	anvertrauen	aufklären
Anhänger	Anwalt	Aufklärung
anhören	anwesend	aufkommen
anklagen	Anwesenheit	Auflagen
ankündigen	Anzahl	auflegen
Anleihe	anzeigen	auflösen
anmerken	Anzug	Auflösung
Annahme	Araber	aufmachen
annehmen	arabisch	Aufmerksamkeit
anordnen	Arbeitsamt	aufrecht
Anordnung	Arbeitskraft	aufreißen
Anpassung	Arbeitsmarkt	aufrichten
anregen	Architektur	aufrufen
Anregung	Ärger	Aufsatz
anrichten	Arzneimittel	aufschlagen
Ansatz	Assistent	aufsetzen
anschauen	ästhetisch	Aufsichtsrat
Anschlag	Atem	aufspringen
anschließend	atmen	aufsteigen
Anschluss	Atmosphäre	aufstellen
ansetzen	Atom	Aufstieg
ansiedeln	attraktiv	aufsuchen
ansonsten	aufbewahren	auftauchen
Anspruch	aufbrechen	auftragen
anstehen	aufbringen	auftreten

aufwachen	ausgerechnet	aussetzen
aufweisen	ausgezeichnet	ausstatten
aufwendig	Ausgleich	Ausstattung
Aufwendung	aushalten	ausstellen
aufzeigen	auskommen	Ausstellung
aufziehen	auslegen	ausüben
Ausbau	auslösen	Auswahl
ausbauen	ausmachen	auswärtig
ausdehnen	Ausmaß	ausweichen
auseinander	ausnehmen	Ausweis
Auseinandersetzung	ausnutzen	ausweisen
ausfallen	ausrichten	auswerten
ausführen	Ausrichtung	Auswertung
ausführlich	ausscheiden	auswirken
Ausführung	ausschließen	Auswirkung
ausfüllen	außen	ausziehen
Ausgang	Außenminister	
Ausgangspunkt	äußere	
ausgehen	außerordentlich	
ausgeprägt	äußerst	

資料 4

ZD の基礎語彙の内、Herder/BYU 2294 位以下あるいはリスト外の語彙

(右側の数字は H/BYU リストにおける頻度順；数字のないものはリスト外)

analysieren	2296	Ausflug	3547	anfassen
Auskunft	2299	Ausgang	3548	anhaben
aussuchen	2301	Autobahn	3705	Ankunft
ausziehen	2302	Apfel	3837	Anmeldung
Angestellte	2340	Abfall	3948	Anruf
abstimmen	2388	aufräumen	3958	Anrufbeantworter
ärgern	2393	Ausweis	3962	anschaffen
aufregen	2394	abbiegen		anschnallen
atmen	2454	abends		anstrengen
Absicht	2494	abfahren		anzünden
aufmachen	2499	Abfahrt		Apfelsine
Alkohol	2589	abfliegen		Apotheke
Aufenthalt	2592	Abgas		Apparat
Aussicht	2594	abmachen		Appetit
abholen	2732	abmelden		Aprikose
ausgezeichnet	2741	abonnieren		ärgerlich
anfangs	2803	abrechnen		Arztpraxis
anmelden	2804	Absender		Asyl
aussteigen	2807	abtrocknen		aufwärts
Anzeige	2975	abwärts		Aufzug
ausfüllen	2978	abwaschen		augenblicklich
anwesend	3154	abwesend		Ausfahrt
aufklären	3156	Achtung		auspacken
aufwachen	3159	Alarm		ausrechnen
ausstellen	3269	Alphabet		ausruhen
abheben	3383	Altenheim		ausschalten
alternativ	3389	Altersheim		Auszubildende
aufschreiben	3398	Ampel		Automat
Anzug	3539	amüsieren		